

教科名	国語		担当者				
科目名	現代の国語						
履修学年	2	コース	全	必修・選択	必修	履修単位	2
使用教科書(出版社)	精選 現代の国語 (三省堂)						
使用副教材(出版社)	改訂版 漢字検定 7~2 級対応 書きたくなる アシスト常用漢字 (数研出版)、 新訂 国語図説 六訂版 (京都書房)						
学習の到達目標	<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>						
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	<p>実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き、主な常用漢字を文や文章の中で使っている。主張と論拠、個別の情報と一般化された情報など、情報と情報との関係について理解している。</p>		<p>「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。</p>		<p>言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。</p>		
評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査、課題考査 ・小テスト ・課題、成果物 ・発表、パフォーマンス 		<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査、課題考査 ・小テスト ・課題、成果物 ・発表、パフォーマンス ・ノート、ワークシート 		<ul style="list-style-type: none"> ・単元の振り返り活動 ・学習状況の観察 ・ペア・グループワーク ・課題、成果物 ・小テスト ・ノート、ワークシート 		
評価の重み	30%		40%		30%		
学期	時期	単元名		学習内容			
1	中間考査まで	<p>一 知らないものに出会う(話すこと・聞くこと)</p> <p>二 相手のことを考える(書くこと)</p>		<p>『ぐうぜん、うたがう、読書のすすめ』、『塩一トンの読書』、「この一冊」を伝え合おう「コラム 読書は対話」</p> <p>『水の東西』、『言語は色眼鏡である』、「日本のお祭りはどういうものですか？」</p>			
	期末考査まで	<p>三 情報社会を生きる(読むこと)</p> <p>四 言葉を見つめる(書くこと)</p>		<p>『ネットが崩す公私の境』、『「選べる社会」の難しさ』、『情報と身体』、『情報社会について考える』</p> <p>『辞書は生きている』、『アガルとノボル』、『オリジナル辞書を作ろう』「コラム 言葉の海の航海」</p>			
2	中間考査まで	<p>五 ワールド・カフェ(話すこと・聞くこと)</p> <p>六 思考の枠組みを広げる(読むこと)</p>		<p>『大切な会話—ワールド・カフェへの招待』、『ワールド・カフェをやってみよう』、『問題を発見するための「寝返り」理論』</p> <p>『「見える文化」/「見えない文化」』、『ありのままの世界は見えない』、『コインは円形か』、『相互理解を深めるために、今何が必要か考えよう』</p>			
	期末考査まで	<p>七 科学技術と人間(書くこと)</p> <p>八 マイクロディベート(話すこと・聞くこと)</p>		<p>『人がアンドロイドとして甦る未来』、『人間にできて機械にできないこと』、『調べたことをレポートにまとめてみよう』</p> <p>『自然をめぐる合意の設計』、『マイクロディベートとは』、『マイクロディベートをやってみよう』</p>			
3	学年末考査まで	<p>九 生命について考える(書くこと)</p> <p>十 多文化共生社会と「私」(読むこと)</p>		<p>『生物と無生物のあいだ』、『ヒトゲノムの意義』、『命は誰のものなのか』、『小論文を書いてみよう』</p> <p>『対談「国際貢献」ではなく「国際協力」である』、『コラム ガンバリ砂漠を目指せ』、『共生社会で求められる「相対的よそ者」の視点』、『グローバリゼーションの光と影』、『ポスターセッションで発表』</p>			
学習についてのアドバイス		<p>「現代の国語」では、実社会における国語による諸活動に必要な資質・能力の育成を目指し、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の各領域で、さまざまな言語活動を行います。現代の社会で必要とされる国語力を身につけるために読書や新聞に親しみ、主体的に取り組ましましょう。</p>					

教科名	公民		担当者				
科目名	公共						
履修学年	2年	コース	全	必修・選択	必修	履修単位	2
使用教科書(出版社)	高等学校 新公共(第一学習社)						
使用副教材(出版社)	学習事項の整理と問題 新公共ノート(第一学習社)						
学習の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・公共的な空間における生き方や考え方について、理解できるようになる。 ・現代社会の基本的な問題について、主体的に考え公正に判断できるようになる。 ・より良い社会の形成に参画・協力する態度や能力が備わるようになる。 						
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	<ul style="list-style-type: none"> ・現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解している。 ・諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べてまとめている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会の諸課題の解決にむけて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実をもとに多面的・多角的に考察し公正に判断することができている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・よりよい社会の実現を視野に、国家及び社会の担い手として、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。 		
評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・ノートや課題プリント等の記述 		<ul style="list-style-type: none"> ・ノートや課題プリント等の記述 ・授業時の発言や発表 		<ul style="list-style-type: none"> ・ノートや課題プリント等の提出 ・授業時の態度や発言 ・単元の振り返り 		
評価の重み	40%		30%		30%		
学期	時期	単元名		学習内容			
1	中間考査まで	第1編公共の扉 第1章 公共的な空間をつくる私たち		<ul style="list-style-type: none"> ・社会に生きる私たち ・個人の尊厳と自主自立 ・多様性と共通性 ・伝統文化とのかかわり ・自立した主体をめざして 			
	期末考査まで	第2章 公共的な空間における人間としてのあり方 第3章 公共的な空間における基本的原理		<ul style="list-style-type: none"> ・人間と社会のあり方についての見方・考え方 ・人間の尊厳と平等、個人の尊厳 ・民主主義と法の支配 ・自由・権利と責任・義務 ・日本国憲法に生きる基本的原理 			
2	中間考査まで	第2編自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち 第1章 法的な主体となる私たち		<ul style="list-style-type: none"> ・私たちと法 ・法と基本的人権 ・自由に生きる権利と法・規範 ・平等に生きる権利と法・規範 ・安全で豊かに生きる権利と法・規範 ・法をより良いものにするための権利 			
	期末考査まで	第2章 政治的な主体となる私たち		<ul style="list-style-type: none"> ・選挙の現状と課題 ・世論の形成と政治参加 ・国会と立法 ・内閣と行政 ・地方自治と住民福祉 ・国家と国際法 ・国境と領土問題 ・国際連合の役割と課題 ・平和主義と安全保障、国際平和、人権・民族問題、地域紛争など ・国際社会における日本の役割 			
3	学年末考査まで	第3章 経済的な主体となる私たち 第3編持続可能な社会づくりの主体となる私たち		<ul style="list-style-type: none"> ・私たちと経済 ・労働者と権利 ・日本経済 ・労働環境と権利 ・技術革新の進展 ・現代の企業 ・市場のしくみ ・経済発展と環境保全 ・金融、財政、社会保障、国民福祉など 			
学習についてのアドバイス		授業はメモを取りながら聞くと良いでしょう。また、日ごろから世の中の動向について注視し、ニュースなどに意識的に触れるようにしてください。定期考査については、授業時に適宜アドバイスをします。					

教科名	数学		担当者				
科目名	数学 I						
履修学年	2	コース	全	必修・選択	必修	履修単位	2
使用教科書（出版社）	新 高校の数学 I（数研出版）						
使用副教材（出版社）	新課程 新高校の数学 I 対応 教科書学習ノート数学 I（数研出版）						
学習の到達目標	図形と計量, 2次関数及びデータの分析について理解させ, 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り, 事象を数学的に考察する能力を培い, 数学のよさを認識できるようにするとともに, それらを活用する態度を育てる。						
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	図形と計量及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに, 事象を数学化したり, 数学的に解釈したり, 数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。		図形の構成要素間の関係に着目し, 図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力, 関数関係に着目し, 事象を的確に表現してその特徴を表, 式, グラフを相互に関連付けて考察する力, 社会の事象などから設定した問題について, データの散らばりや変量間の関係などに着目し, 適切な手法を選択して分析を行い, 問題を解決したり, 解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。		数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度, 粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度, 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり, 評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。		
評価の方法	定期考査 確認テスト・小テスト		単元テスト グループ活動		振り返りシート ノートなどの課題提出 自主レポート		
評価の重み	40%		30%		30%		
学期	時期	単元名		学習内容			
1	中間考査 まで	第3章 図形と計量 第1節 三角比		1. 直角三角形 2. 三角比 3. 三角比の利用 4. 三角比の相互関係			
	期末考査 まで	第3章 図形と計量 第1節 三角比		5. 鈍角の三角比			
2	中間考査 まで	第3章 図形と計量 第2節 三角形への応用		1. 正弦定理 2. 余弦定理 3. 三角形の面積			
	期末考査 まで	第4章 集合と命題		1. 集合 2. 命題と集合 3. 必要条件と十分条件			
3	学年末考査 まで	第5章 データの分析		1. データの整理 2. データの代表値 3. データの散らばり 4. データの相関 5. 仮説検定の考え方			
学習についてのアドバイス	定期考査に加えて, 単元テストや課題, 自主レポートの提出があります。定期考査の勉強だけでなく, 日々の授業に前向きに取り組みましょう。						

教科名	理科		担当者				
科目名	生物基礎						
履修学年	2年	コース	全	必修・選択	必修	履修単位	2
使用教科書(出版社)	新編 生物基礎 (東京書籍)						
使用副教材(出版社)	無し						
学習の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生物が関わる様々な自然現象を学習し、生物学への理解・関心を深める。 ・生命倫理に関わる問題など、生物学に関連した様々な社会的課題に関心をもち、自分の意見をもてるようになる。 ・生物学に関する様々な実習をおこない、実習に必要な技術、考え方を身につける。 						
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	生物が関わる様々な自然現象についての観察、実験を通して基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的に探究するために必要な知識、技術を身につけているかどうか。その知識、技術を用いて、活用する力が身につけているかどうか。		観察、実験などを行い、生物学に関するに情報の収集や仮説の設定、実験の計画、実験による検証、実験データの分析・解釈などの探究の方法を習得し、結果をまとめ発表することで、科学的に探究する力を身につけているかどうか。		生命倫理に関わる問題など、生物学に関連した様々な社会的課題に関心をもち、自分の意見をもち、課題を設定し解決するなど、科学的に探究しようとする態度を身につけているかどうか。		
評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・小テスト 		<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査・小テスト ・ノートや実験レポート記述 ・グループ活動記録 		<ul style="list-style-type: none"> ・単元の振り返り ・ノートなどの課題提出 ・グループ活動記録 		
評価の重み	40%		30%		30%		
学期	時期	単元名		学習内容			
1	中間考査まで	1編 生物の特徴 1章 生物の多様性と共通性		①生物の多様性 ②生物の共通性 ③細胞の特徴 ④実験			
	期末考査まで	1編 生物の特徴 2章 生物とエネルギー		①生体と ATP ②酵素のはたらき ③呼吸と光合成 ④実験			
2	中間考査まで	2編 遺伝子とそのはたらき 1章 遺伝情報と DNA 2章 遺伝情報とタンパク質の合成		①生物と遺伝子 ②DNA の構造 ③DNA の複製と分配 ④タンパク質、タンパク質と遺伝情報 ⑤細胞の分化と遺伝子 ⑥実験			
	期末考査まで	3編 ヒトの体の調節 1章 ヒトの体を調節するしくみ 2章 免疫のはたらき		①体内環境 ②神経による情報伝達 ③内分泌系による情報伝達、血糖濃度の調節 ④免疫のしくみ、応用 ⑤免疫のさまざまな疾患 ⑥実験			
3	学年末考査まで	4編 生物の多様性と生態系 1章 植物と遷移 2章 生態系と生物の多様性		①身のまわりの植生 ②植物の遷移とバイオーム ③生態系における生物の多様性 ④生態系における生物間の関係 ⑤生態系と人為的攪乱、生態系の保全 ⑥実験			
学習についてのアドバイス		日々の学習とともに、考査のときのファイル提出、夏休みの課題等、提出物をしっかり提出してください。わからないときは周りの教員に積極的に質問してください。					

教科名	保健体育		担当者				
科目名	体育						
履修学年	2年	コース	全	必修・選択	必修	履修単位	2
使用教科書(出版社)	現代高等保健体育(大修館書店)						
使用副教材(出版社)	無し						
学習の到達目標	運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わうとともに、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続できるようにすること						
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	<p>体づくり運動の行い方、体力の構成要素、実生活への取り入れ方を理解しているかどうか。 また新たに技や動き及び得意技を身に付け、記録や技に挑戦しているか、ルールを工夫して試合をしたり、発表したりできるか、多様な機会でも継続して運動やスポーツを実践できるかどうか。</p>		<p>生涯にわたって運動を豊かに継続するための自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えられるかどうか。</p>		<p>フェアなプレイを大切にし、互いに助け合い高め合おうとしたり、役割を積極的に引き受け自己の責任を果たしたりする等、健康・安全を確保し、主体的に取り組もうとしているかどうか。</p>		
評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・実技テスト ・授業中の発言 ・教師による行動観察 		<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の発言 ・教師による行動観察 ・プリントやレポート等による記述 		<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の発言 ・教師による行動観察 ・グループ活動 		
評価の重み	40%		30%		30%		
学期	学習内容						
1	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・シャトルラン ・バドミントン/ソフトボール/テニス/卓球 ・水泳/陸上競技 ・体づくり運動 ・体育理論(2単元 運動・スポーツの学び方) 						
2	<ul style="list-style-type: none"> ・バスケットボール/バレーボール/サッカー ・バドミントン/卓球/テニス ・体づくり運動 ・体育理論(2単元 運動・スポーツの学び方) 						
3	<ul style="list-style-type: none"> ・バドミントン/バスケットボール/卓球 ・体づくり運動 ・体育理論(2単元 運動・スポーツの学び方) 						
学習についてのアドバイス	<p>仲間と協力して、楽しさや喜びが感じられるように、課題を持って取り組みましょう。ルールを守り、公正、公平な態度で、授業に積極的に参加する姿勢を大切にしてください。また運動に適した体育着に着替え、用具の安全や体調に十分配慮しながら、運動するようにしてください。</p>						

教科名	保健体育		担当者				
科目名	体育(男子)						
履修学年	2年	コース	全	必修・選択	必修	履修単位	2
使用教科書(出版社)	現代高等保健体育(大修館書店)						
使用副教材(出版社)	無し						
学習の到達目標	運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わうとともに、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続できるようにすること						
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	<p>体づくり運動の行い方、体力の構成要素、実生活への取り入れ方を理解しているかどうか。 また新たに技や動き及び得意技を身に付け、記録や技に挑戦しているか、ルールを工夫して試合をしたり、発表したりできるか、多様な機会継続して運動やスポーツを実践できるかどうか。</p>		<p>生涯にわたって運動を豊かに継続するための自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えられるかどうか。</p>		<p>フェアなプレイを大切にし、互いに助け合い高め合おうとしたり、役割を積極的に引き受け自己の責任を果たしたりする等、健康・安全を確保し、主体的に取り組もうとしているかどうか。</p>		
評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・実技テスト ・授業中の発言 ・教師による行動観察 		<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の発言 ・教師による行動観察 ・プリントやレポート等による記述 		<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の発言 ・教師による行動観察 ・グループ活動 		
評価の重み	40%		30%		30%		
学期	学習内容						
1	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・シャトルラン ・テニス ・体づくり運動 ・体育理論(2単元 運動・スポーツの学び方) 						
2	<ul style="list-style-type: none"> ・バレーボール ・卓球 ・体づくり運動 ・体育理論(2単元 運動・スポーツの学び方) 						
3	<ul style="list-style-type: none"> ・サッカー ・体づくり運動 ・体育理論(2単元 運動・スポーツの学び方) 						
学習についてのアドバイス	<p>仲間と協力して、楽しさや喜びが感じられるように、課題を持って取り組みましょう。ルールを守り、公正、公平な態度で、授業に積極的に参加する姿勢を大切にしてください。また運動に適した体育着に着替え、用具の安全や体調に十分配慮しながら、運動するようにしてください。</p>						

教科名	保健体育		担当者				
科目名	保健						
履修学年	2年	コース	全	必修・選択	必修	履修単位	1
使用教科書(出版社)	現代高等保健体育(大修館書店)						
使用副教材(出版社)	無し						
学習の到達目標	心と体を一体として捉え、生涯を通じて心身の健康を保持増進するための資質・能力を育成すること						
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	生涯を通じる健康、健康を支える環境づくりとその活用について、個人だけでなく社会生活について総合的に理解できるようにするとともに、それらの内容に関わる技能を身につけているかどうか。		健康に関わる事象や健康情報などから自他や社会の課題を発見し、よりよい解決に向けて思考したり、様々な解決方法の中から適切な方法を選択するなどの判断をしたりするとともに、それらを他者に表現することができるかどうか。		自他の健康やそれを支える環境づくりに関心をもち、現在だけでなく生涯を通じて健康の保持増進や回復を目指す実践力を育て、将来の生活を健康で活力に満ちた明るく豊かなものにしようとしているかどうか。		
評価の方法	・定期考査 ・授業中の発言		・定期考査 ・ノートやレポート等による記述		・ノートやレポート等による記述 ・教師による行動観察 ・グループ活動		
評価の重み	40%		30%		30%		
学期	単元名			学習内容			
1	3単元 生涯を通じる健康			1. ライフステージと健康 2. 思春期と健康 3. 性意識と性行動の選択 4. 妊娠・出産と健康 5. 避妊と人工妊娠中絶 6. 結婚生活と健康 7. 中高年期と健康			
2	3単元 生涯を通じる健康			8. 働くことと健康 9. 労働災害と健康 10. 健康的な職業生活			
	4単元 健康を支える環境づくり			1. 大気汚染と健康 2. 水質汚濁、土壌汚染と健康 3. 環境と健康にかかわる対策 4. ごみの処理と下水道の整備			
3	4単元 健康を支える環境づくり			5. 食品の安全 6. 食品衛生にかかわる活動 7. 保健サービスとその活用 8. 医療サービスとその活用 9. 医薬品の制度とその活用 10. さまざまな保健活動や社会的対策 11. 健康に関する環境づくりと社会参加			
学習についてのアドバイス	自らの健康について、また、環境の変化や医学の急速な進歩、新たな健康問題などに興味を持ち、様々な健康課題を身近な問題としてとらえ、課題の解決方法を考えながら取り組むことが大切です。評価の観点を理解し、意欲的に取り組むようにしてください。						

教科名	英語		担当者				
科目名	英語コミュニケーション I						
履修学年	2年	コース	全	必修・選択	必修	履修単位	2
使用教科書(出版社)	All Aboard! English Communication I (東京書籍)						
使用副教材(出版社)	All Aboard! English Communication I workbook (東京書籍)、英語へのステップ (東京書籍)						
学習の到達目標	<p>日常的・社会的な話題について、多くの支援を活用すれば、</p> <ol style="list-style-type: none"> 必要な情報を聞き取ったり、読み取ったりすることで、相手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。 基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやり取りをしたり、論理性に注意して話して伝え合ったりすることができる。 基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを文章に書いて伝えることができる。 						
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	<p>外国語の4技能（聞くこと、読むこと、話すこと、書くこと）について、実際のコミュニケーションにおいて活用できる知識・技能を身に付けている。</p> <p>外国語の学習を通じて、言語の働きや役割などを理解している。</p>		<p>場面、目的、状況等に応じて、日常的な話題から時事問題や社会問題まで幅広い話題について、情報や考えなどを外国語で的確に理解したり適切に伝え合ったりしている。</p> <p>聞いたり読んだりしたことなどを活用して、自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現している。</p>		<p>他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して、自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現しようとしている。</p> <p>言語やその背景にある文化に対する関心を持って、自律的、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。</p>		
評価の方法	定期テスト 小テスト		スピーチの内容 英作文等の提出物		グループ活動 単元の振り返り 課題などの提出		
評価の重み	40%		30%		30%		
学期	時期	単元名		学習内容			
1	期末考査 まで	Lesson5 Learning from the Sea Lesson6 A Funny Picture from the Edo Period		<p>高校のユニークな部活動を通して、今好きなことと将来の夢について考える。〔言語材料〕動名詞</p> <p>〔言語活動〕将来の夢について英語で述べることができる。</p> <p>歌川国芳についてのスピーチを通して浮世絵と現代マンガの関連性について考える。〔言語材料〕受け身</p> <p>〔言語活動〕好きな絵について英語で述べることができる。</p>			
2	期末考査 まで	Lesson7 A Diary of Hope Lesson8 A Door to a New Life		<p>アンネ・フランクの生活と日記について紹介する授業を通して、生きることの意味について考える。〔言語材料〕比較</p> <p>〔言語活動〕関心のある人物について、英語で説明することができる。</p> <p>ロボットカフェを紹介する実況を通して、ロボットの可能性について考える。〔言語材料〕現在完了形</p> <p>〔言語活動〕人の生活を豊かにするロボットについて考え、英語で提案することができる。</p>			
3	学年末考査 まで	Lesson9 Fighting Plastic Pollution		<p>プラスチックごみによる環境汚染と戦うインドネシアの姉妹の活動を学習する。〔言語材料〕分詞</p> <p>〔言語活動〕環境を守るためにできることについて、英語で述べるすることができる。</p>			
学習についてのアドバイス	教科書を通して基本的な文法事項を学習し、それらを繰り返し練習しながら、英文を読み、理解する力をつけていきます。またAETと対話し、コミュニケーション力の向上を図ります。しっかりと基本的な文法事項を身につけ、自分の力で英語を読もうとする姿勢を持つことを期待します。						

教科名	家庭		担当者				
科目名	家庭総合						
履修学年	2	コース	全	必修・選択	必修	履修単位	2
使用教科書（出版社）	未来へつなぐ家庭総合365（教育図書）						
使用副教材（出版社）	家庭科55デジタル+（教育図書）						
学習の到達目標	<p>1.人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらにかかわる技能を体験的・総合的に身につけるようにする。</p> <p>2.家庭や地域の生活課題を見出して、解決策を構想し、実践する。さらに自ら評価・改善し、考察したことを表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。</p> <p>3.様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。</p>						
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	人間の発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深めている。生活を主体的に営むために必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらにかかわる技能を身につけている。		家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を身につけている。		さまざまな人と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を身につけている。		
評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・ワークシート、ノート ・実習作品 ・レポート、自己評価 		<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・ワークシート、ノート ・発表、グループ活動 ・レポート、自己評価 ・教師による行動観察 		<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・ワークシート、ノート ・発表、グループ活動 ・レポート、自己評価 ・教師による行動観察 		
評価の重み	40		30		30		
学期	時期	単元名		学習内容			
1	中間考査まで	私たちの生活／私たちの一生 生涯の生活設計1 青年期の自立と家族・家庭		家庭総合の学習内容の概観 あなたの将来、どうする？ ①自立への一歩を踏み出そう ②家族・家庭って何？ ③将来の自分と家庭を想像する			
	期末考査まで	生活における経済の計画 消費生活と意思決定		①将来に向けて家計を考えよう ②将来の経済計画を立ててみよう ①何をどうやって買う？ ②かしこい消費者になろう			
2	中間考査まで	衣生活と健康		①衣服の役割って何だろう？ ②衣服はどうやってつくられている？ ③自分で衣服をつくってみよう			
	期末考査まで	衣生活と健康 高齢期の生活と福祉		④衣服の計画・管理を知ろう ⑤今後の衣生活を考えよう ①高齢期ってどういう時期？			
3	学年末考査まで	高齢期の生活と福祉 共生社会と福祉		②高齢者とふれ合ってみよう ③高齢化する日本を生きる ①共生って何だろう？ ②ノーマライゼーションとは			
学習についてのアドバイス	人間の健全な発達と生活の営みを総合的にとらえ、家族・家庭と社会とのかかわりについて理解してください。将来を見通し、生活に必要な知識と技術を習得し、男女が協力して家庭や地域の生活を創造する能力と実践力をつけてほしいです。実験・実習は、事故防止のために説明をしっかりと聞き、道具や機械を正しく使用し、協力して行ってください。						

教科名	商業		担当者				
科目名	マーケティング						
履修学年	2年	コース	経済キャリア デザインキャリア	必修・選択	必修	履修単位	4単位
使用教科書（出版社）	マーケティング（実教出版）						
使用副教材（出版社）	マーケティング準拠問題集（実教出版） 全商商業経済検定模擬試験問題集1・2級マーケティング（実教出版）						
学習の到達目標	<p>商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、マーケティングに必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ マーケティングについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 ・ マーケティングに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。 ・ ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、マーケティングに主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。 						
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	企業における事例など実際のマーケティングと関連付けられ、ビジネスの様々な場面で役に立つマーケティングに関する知識と技術を身に付けている。		唯一絶対の答えがないことの多い経済社会にあつて、マーケティングをはじめとした様々な知識、技術などを活用し、マーケティングに関する課題を発見するとともに、企業活動が社会に及ぼす影響を踏まえ、顧客についての理解、市場の動向、マーケティングに関する理論、データ、成功事例や改善を要する事例など科学的な根拠に基づいて工夫してよりよく解決することについて考えている。		ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自らマーケティングについて学ぶ態度及び組織の一員として自己の役割を認識して当事者としての意識をもち、他者と信頼関係を構築して積極的に関わり、市場調査の実施と情報の分析、製品政策、価格政策、チャネル政策、プロモーション政策の企画と実施などに責任をもって取り組んでいる。		
評価の方法	定期考査 単元テスト・小テスト		定期考査 単元テスト・小テスト ノート・レポート 発言・行動		定期考査 単元テスト・小テスト ノート・レポート 発言・行動		
評価の重み	全体の40%		全体の30%		全体の30%		
学期	時期	単元名		学習内容			
1	中間考査 まで	Introduction 第1章 マーケティングの概要 1. マーケティングの歴史と発展 2. 現代の市場とマーケティング 3. マーケティング環境の分析 4. マーケティング・マネジメント 第2章 消費者行動の理解 1. 消費者の心理と行動の関係 2. 購買意思決定過程 3. 消費者行動に影響を与える要因		マーケティングを学ぶ意義を理解する。 現代市場の特徴を理解し、マーケティングの考え方や手順について学ぶ。 現代市場における消費者保護や環境問題、法令遵守、企業の社会的責任などの重要性について理解を深める。 マーケティングの意義や一連の流れを学ぶ。 マーケティング計画の立案に必要な消費者行動について学ぶ。 消費者の心理や購買意思決定までの過程、消費者行動に影響を与える要因について理解する。 消費者行動について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む。			
	期末考査 まで	第3章 市場調査 1. 市場調査の概要 2. 市場調査の手順 3. 仮説検証の手順 4. 実態調査の方法 第4章 STP 1. セグメンテーション 2. ターゲティング 3. ポジショニング		市場調査について理解し、関連する技術を学ぶ。 市場調査に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づく調査計画を立案して実施し、評価・改善するとともに、市場調査で得られた情報を科学的に分析する。 市場調査について自ら学び、マーケティングに必要な情報の収集と分析に積極的に取り組む。 STP分析を理解し、関連する技術を学ぶ。 STP分析に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいてその解決方法を考える。 STP分析について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む。			

2	中間考査 まで	<p>第5章 製品政策</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 製品政策の概要 2. 新製品開発 3. 販売計画と生産計画 4. 製品政策の動向 <p>第6章 価格政策</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 価格政策の概要 2. 価格の設定方法 3. 価格政策の動向 	<p>製品政策について企業における事例と関連付けて理解する。</p> <p>製品政策に関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて、製品政策を立案して実施し、評価・改善する。</p> <p>製品政策について自ら学び、経済や消費者の動向などを踏まえ、製品政策に主体的かつ協働的に取り組む。</p> <p>価格政策について企業における事例と関連付けて理解する。</p> <p>価格政策に関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて、価格政策を立案して実施し、評価・改善する。</p> <p>価格政策について自ら学び、経済や消費者の動向などを踏まえ、価格政策に主体的かつ協働的に取り組む。</p>
	期末考査 まで	<p>第7章 チャンネル政策</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. チャンネル政策の概要 2. チャンネルの選択と管理 3. チャンネル政策の動向 <p>第8章 プロモーション政策</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. プロモーション政策の概要 2. プロモーションの種類 	<p>チャンネル政策について企業における事例と関連付けて理解する。</p> <p>チャンネル政策に関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて、チャンネル政策を立案して実施し、評価・改善する。</p> <p>チャンネル政策について自ら学び、経済や消費者の動向などを踏まえ、チャンネル政策に主体的かつ協働的に取り組む。</p> <p>プロモーション政策について企業における事例と関連付けて理解する。</p> <p>プロモーション政策に関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて、プロモーション政策を立案して実施し、評価・改善する。</p> <p>プロモーション政策について自ら学び、経済や消費者の動向などを踏まえ、プロモーション政策に主体的かつ協働的に取り組む。</p>
3	学年末考査 まで	<p>第8章 プロモーション政策</p> <ol style="list-style-type: none"> 3. プロモーション政策の動向 <p>第9章 マーケティングのひろがり</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. さまざまなマーケティング戦略 2. サービス・マーケティング 3. 小売マーケティング 4. 観光地マーケティング 5. グローバル・マーケティング 6. ソーシャル・マーケティング 	<p>プロモーション政策について企業における事例と関連付けて理解する。</p> <p>プロモーション政策に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて、プロモーション政策を立案して実施し、評価・改善する。</p> <p>プロモーション政策について自ら学び、経済や消費者の動向などを踏まえ、プロモーション政策に主体的かつ協働的に取り組む。</p> <p>マーケティングの広がりについて企業における事例と関連付けて理解する。</p> <p>マーケティングの広がりに関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいてその解決方法を考える。</p> <p>マーケティングの広がりについて自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む。</p>
学習についての アドバイス		<p>マーケティングの学習要素は日常生活のなかにあります。授業で学んだことと生活のなかにある出来事を結び付け、自分事として捉えられると、学びがより深まります。消費者の立場と企業の立場があることを意識し、ささいな疑問から社会生活における課題を考え、マーケティングの役割について探究的に考えることを目指しましょう。</p>	

教科名	商業		担当者				
科目名	観光ビジネス						
履修学年	2	コース	観光	必修・選択	必修	履修単位	3
使用教科書(出版社)	観光ビジネス(実教出版)						
使用副教材(出版社)	観光ビジネス 準拠問題集(実教出版)						
学習の到達目標	観光ビジネスの主な産業やその特徴について学び、旅行業や宿泊業における接遇について基本的な知識を身に付け、観光政策や地域の活性化について考える。						
評価の観点	知識・技術		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	企業における事例など実際の観光ビジネスと関連付けられ、ビジネスの様々な場面で役に立つ観光ビジネスに関する知識と技術を身に付けている。		観光に関する諸課題を発見して、課題解決を目指して考えを深めることができるか。観光ビジネスについてマーケティングを活用して考えることができるか。		観光ビジネスの産業やマーケティング、地域の観光政策等について主体的に調査しているか。		
評価の方法	・定期考査 ・小テスト ・レポート提出		・定期考査 ・レポート提出・発表 ・グループ活動		・定期考査 ・レポート提出 ・授業中の発言 ・教師による行動観察		
評価の重み	40%		30%		30%		
学期	時期	単元名		学習内容			
1	中間考査まで	○第1章 観光ビジネスの概要		観光ビジネスの担い手や特徴について調査し、まとめる。地域の魅力や、観光政策について考える。			
	期末考査まで	○第2章 観光ビジネスの主な産業		観光ビジネスの主な産業について自ら学び、経済や消費者の動向などを踏まえ、地域とのつながりを考える。			
2	中間考査まで	○第2章 観光ビジネスの主な産業		旅行業で学んだことを活かし、旅行のプランニングから実践を行う。			
	期末考査まで	○第3章 観光ビジネスのマーケティング		マーケティングで学んだ政策や手法と、観光における課題を照らし合わせて、観光ビジネスのマーケティングについて考える。			
3	学年末考査まで	○まとめ		観光ビジネスでまちを活性化させるために必要な情報の発信・提供について学び、実際に自分たちが学んだことを発表する。			
学習についてのアドバイス		観光ビジネスを担う産業は色々な形があり、時代とともに多様化しています。観光に関わる産業はどのようなものがあるのか、そこで働くためにはどのような力が必要なのかを考え、前向きに学習しましょう。					

教科名	商業		担当者				
科目名	ビジネス法規						
履修学年	2	コース	経済キャリア	必修・選択	必修	履修単位	3
使用教科書（出版社）	ビジネス法規（実教出版）						
使用副教材（出版社）	ビジネス法規 準拠問題集（実教出版） 全商商業経済検定模擬試験問題集1・2級ビジネス法規						
学習の到達目標	ビジネスに必要な法規に関する基本的な知識を習得し、経済事象を法的に考え、主に商取引にかかわるトラブルや事例について法を用いて適切に判断し、解決するための能力や態度を育てる。						
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	ビジネスに必要な法規に関する知識を習得し、法の意義や役割を理解できているか。また、具体的な事例に法律の条文をあてはめ、適切な結論を導き出すことができるか。		ある事象の解釈について、また条文について、その生成過程や立法の趣旨を論理的に思考し、様々な判例や解釈に基づき、法的な結論を導き出すことができるか。		法の知識、法的思考が生活上必須のことであることに関心を持ち、意欲的に学習しようとする姿勢や、態度を示しているか。また、自身の学習する態度や毎時の学習を振り返り、内省したり、思考を展開させたりすることができているか。		
評価の方法	・定期考査 ・小テスト ・振り返り		・定期考査 ・授業中の活動（発言、質問等） ・教師による行動観察 ・提出物の取り組み		・授業中の活動（発言、質問等） ・教師による行動観察 ・提出物の取り組み ・レポートの作成、発表		
評価の重み	40%		30%		30%		
学期	時期	単元名		学習内容			
1	中間考査まで	第1章 経済社会と法		法の本質と体系 法の分類、効力、適用と解釈 問題演習			
	期末考査まで	第2章 権利・義務と財産権		権利・義務の主体としての自然人について権利能力・行為能力という用語の理解を含め、自然人の能力と、制限行為能力者制度 問題演習			
2	中間考査まで	第3章 財産権と契約としてその保護 第4章 企業活動に関する法		財産権の変動、権利の発生・変更・消滅、消費貸借・賃貸借、金銭の消費代謝における利息制限法と出資法、営業自由の原則、株式会社の機関の機能と相互関連法規 問題演習			
	期末考査まで	第5章 取引に関する法		債務不履行の3つの態様について学習。手形・小切手について法律上の要件と制度、手形行為・小切手行為の概念、約束手形の書面性、様式性の理解 問題演習			
3	学年末考査まで	第6章 企業の責任と法 第7章 税の仕組み		企業に対して社会的責任を負わせるなど新しい法令遵守の状況理解、企業統治や内部統制、不正行為防止の取り組み、税の種類と仕組み、企業会計と税務会計 検定問題演習			
学習についてのアドバイス		法律の基礎基本から解説し、身近な問題や理解を深めるために毎時間学習を行います。専門的な用語や法律独特の考え方も出てくるため、授業をしっかりと聞き、ノートやプリントをまとめることが大切です。知らない言葉や難しい言葉もたくさん出てきますが、コツコツと用語を覚え、それぞれの事例や事象に対して自分なりの考えや意見を法の知識を利用して表現することが大切です。					

教科名	商業		担当者				
科目名	ビジネス法規						
履修学年	2	コース	観光キャリア	必修・選択	必修	履修単位	2
使用教科書（出版社）	ビジネス法規（実教出版）						
使用副教材（出版社）	経済活動と法 新訂版 問題集（実教出版）						
学習の到達目標	ビジネスに必要な法規に関する基本的な知識を習得し経済事象を法律的に考え、適切に判断して行動する能力と態度を育てる。						
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	ビジネスに必要な法規に関する知識を習得し、法の意義や役割を理解できているか。また、具体的な事例に法律の条文をあてはめ、適切な結論を導き出すことができるか。		ある事象の解釈について、また条文についてなどの生成過程や立法の趣旨を論理的に思考し、どう判断しとらえることができるか。		法の知識、法的思考が生活上必須のことであることに関心を持ち、意欲的に学習しようとするか。		
評価の方法	・定期考査 ・小テスト		・定期考査 ・授業中の発言 ・教師による行動観察 ・問題集、提出物などの取組み		・授業中の発言 ・教師による行動観察 ・問題集、提出物などの取組み ・レポートの作成、発表		
評価の重み	40%		30%		30%		
学期	時期	単元名		学習内容			
1	中間考査まで	第1章 経済社会と法		法の本質と体系 法の分類、効力、適用と解釈			
	期末考査まで	第2章 権利・義務と財産権		権利・義務の主体としての自然人について権利能力・行為能力という用語の理解を含め、自然人の能力と、制限行為能力者制度への理解			
2	中間考査まで	第3章 財産権と契約そしてその保護 第4章 企業活動に関する法		財産権の変動、権利の発生・変更・消滅、消費貸借・賃貸借 金銭の消費貸借において、利息制限法と出資法 営業自由の原則 株式会社の機関の機能と各機関相互の関連			
	期末考査まで	第5章 取引に関する法		債務不履行の3つの態様について学習 手形・小切手について法律上の要件と制度 手形行為・小切手行為の概念 約束手形の書面性・様式性の理解			
3	学年末考査まで	第6章 企業の責任と法		企業に対して社会的責任を負わせるなど新しい法令遵守 企業統治や内部統制、不正行為防止の仕組み			
学習についてのアドバイス		法の基礎的などころから解説します。専門的な用語や法固有の考え方が多く出てくるため、授業をしっかりと聞き、ノートにまとめることが大切です。用語を暗記するだけでなく、それぞれの事例に応じてどのような法が適用されるかを考える事が大切です					

教科名	商業		担当者				
科目名	財務会計						
履修学年	2	コース	経済キャリア 観光キャリア デザインキャリア 情報キャリア	必修・選択	必修	履修単位	3
使用教科書(出版社)	新簿記(実教出版)・新財務会計Ⅰ(実教出版)						
使用副教材(出版社)	最新段階式 簿記検定問題集 全商2級(実教出版) 全商簿記実務検定模擬試験問題集 2級(実教出版)						
学習の到達目標	第1学年で学習した「簿記」をふまえ、企業会計の役割や制度及び財務諸表の作成に関する基本的知識・技術を学習する科目です。また作成された財務諸表から得られる情報を活用する知識を養います。						
評価の観点	知識・技術		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	財務会計に関する基礎的・基本的な知識を身につけ、その仕組みについて学習するとともに、適正な会計処理を行う技術を身につけている。		適正な会計処理を行うことを目指して志向を深め、基礎的・基本的な知識と技術をもとに、ビジネスの諸活動にわるものとして、適切に判断し、表現する創造的な能力を身につけている。		財務会計について関心を持ち、適正な会計処理を行うことをめざして主体的に取り組む態度をもち、会計処理を行う実践的な態度を身につけている。		
評価の方法	定期テスト 小テスト レポート		定期テスト 小テスト レポート 観察(学習状況、発表など) 学習の振り返り		観察(学習状況、発表など) 学習の振り返り		
評価の重み	40%		30%		30%		
学期	時期	単元名			学習内容		
1	中間考査 まで	【簿記】 第24章 特殊な手形の取引 第25章 有価証券の取引			「手形の裏書譲渡」「手形の割引」 「手形の書き換え」「手形の不渡り」 「営業外受取手形・支払手形」 「有価証券とは」「有価証券の取得と売却」		
	期末考査 まで	第26章 本支店会計 第27章 最近の実務に広がる取引			「支店会計の独立」「本支店間の取引」 「本支店の財務諸表の合併」 「支店相互間の取引の記帳」 「クレジット売掛金」「電子記録債権・債務」		
2	中間考査 まで	第28章 決算(その2)			「費用収益の繰り延べと見越し」 「有価証券の評価」「定率法による減価償却」 「郵便切手などの未使用分」 「損益計算書と貸借対照表の作成」		
	期末考査 まで	第29章 株式会社の取引と財務諸表			「株式会社とは」「株式会社の設立」「株式の発行」 「純利益の計上」「剰余金の配当と処分」 「株式会社の税金」「株式会社の財務諸表」		
3	学年末考査 まで	全商簿記検定対策			「検定試験 2級模擬問題集」		
		【財務会計Ⅰ】 第1章 企業と会計			「企業会計の意味と役割」「財務会計の機能」「会計の歴史」		
		第2章 企業会計制度と会計法規			「企業会計制度」「会計法規」「企業会計原則と企業会計基準」「財務諸表の種類」		
		第32章 財務諸表分析			「関係比率法」「構成比率法」「趨勢法」「実数法」		
学習についてのアドバイス		1年生で学習した「簿記」の学習のうえにあって、財務諸表の作成、公表とその利用方法を学び、経済活動に役立てる能力と態度を養うことをねらいとしています。例題や練習問題を自分で繰り返しやることでその能力が身につきます。					

教科名	商業		担当者				
科目名	財務会計Ⅰ						
履修学年	2	コース	会計キャリア	必修・選択	必修	履修単位	5
使用教科書(出版社)	新簿記(実教出版)・新財務会計Ⅰ(実教出版)						
使用副教材(出版社)	最新段階式 簿記検定問題集 全商2級(実教出版)・最新段階式 簿記検定問題集 全商1級会計(実教出版) 全商簿記実務検定模範式問題集2級(実教出版)・全商業簿記実務検定模範式問題集1級会計(実教出版)						
学習の到達目標	<p>商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、会計情報の提供と活用に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 財務会計について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 企業会計に関する法規と基準及び会計処理の方法の妥当性と課題を見いだし、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応するとともに、会計的側面から企業を分析する力を養う。</p> <p>(3) 会計責任を果たす力の向上を目指して自ら学び、適切な会計情報の提供と効果的な活用主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>						
評価の観点	知識・技術		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	財務会計に関する論理的な知識と技術ことどもならず、実務と関連付けられ、ビジネスの様々な場面で役に立つ知識と技術を身に付けている。		財務会計をはじめとした様々な知識、技術などを活用し、企業会計に関する法規と基準及び会計処理の方法の妥当性と実務に適用することに伴う課題を見いだすとともに、会計情報が社会に及ぼす影響を踏まえ、財務会計に関する理論、企業活動の流れなど科学的な根拠に基づいて工夫してよりよく課題に対応する力及び財務指標を組み合わせて企業の実態を総合的に分析する力を養うことができる。		会計責任を果たす力の向上を目指して自ら財務会計について学ぶ態度及び組織の一員として自己の役割を認識して当事者としての意識をもち、他者と信頼関係を構築して積極的に関わり、適正な会計処理、財務諸表の作成と分析などによる会計情報の提供と効果的な活用に責任をもって取り組む態度を養うことができている。		
評価の方法	定期考査 単元テスト・小テスト		定期テスト 単元テスト・小テスト、ワークシート、発言・行動		単元テスト・小テスト ワークシート、発言・行動		
評価の重み	全体の40%		全体の30%		全体の30%		
学期	時期	単元名		学習内容			
1	中間考査 まで	【簿記】第24章 特殊な手形の取引 第25章 有価証券の取引 第26章 本支店会計 第27章 最近の実務に広がる取引 第28章 決算(その2) 第29章 株式会社の取引と財務諸表		○「手形の書き換え」「手形の不渡り」「保証債務」「営業外受取手形・支払手形」 ○「有価証券とは」「有価証券の取得と売却」 ○「支店会計の独立」「本支店間の取引」「本支店の財務諸表の合併」「支店相互間の取引の記帳」 ○「クレジット売掛金」「電子記録債権・債務」 ○「費用収益の繰り延べと見越し」「有価証券の評価」「定率法による減価償却」 ○「郵便切手などの未使用分」「損益計算書と貸借対照表の作成」 ○「設立時・増資時の株式の発行」「当期純利益の繰越利益剰余金勘定への振替」 ○「剰余金の配当と処分」「株式会社の税金」「株式会社の財務諸表」			
	期末考査 まで	【財務会計Ⅰ】第1章 企業と会計 第2章 企業会計制度と会計法規 第3章 貸借対照表のあらまし 第4章 資産の意味・分類・評価 第5章 流動資産PART1当座資産 第6章 流動資産PART2棚卸資産・その他の流動資産 第7章 固定資産PART1有形固定資産 第8章 固定資産PART2無形固定資産		○「企業会計の意味と役割」「財務会計の機能」「会計標準」「会計の歴史」 ○「企業会計制度」「会計法規」「企業会計原則と企業会計基準」「財務諸表の種類」 ○「貸借対照表とその役割」「貸借対照表の区分」「貸借対照表の様式」 ○「資産の意味」「資産の分類」「資産の評価」 ○「現金預金」「受取手形」「電子記録債権」「売掛金」「クレジット売掛金」「有価証券」 ○「棚卸資産の取得原価と費用配分の原則」「棚卸資産の期末評価」「売価還元法」 ○「資本的支出・収益的支出」「減価償却」「ファイナンス・リース取引」 ○「無形固定資産の取得原価」「無形固定資産の期末評価」			
2	中間考査 まで	第9章 固定資産PART3投資その他の資産 第10章 負債の意味と分類 第11章 流動負債 第12章 固定負債 第13章 純資産の意味と分類 第14章 資本金 第15章 資本剰余金 第16章 利益剰余金 第17章 自己株式		○「投資その他の資産の種類」「投資その他の資産の期末評価」 ○「負債の意味」「負債の分類」 ○「流動負債の各項目」「評価性引当金・負債引当金」 ○「長期借入金」「リース債務」「退職給付引当金」「偶発債務」 ○「純資産の意味」「純資産の分類」 ○「株式会社の資本金」「資本金の増加・減少」 ○「資本剰余金の意味」「資本準備金」「その他の資本剰余金」「会社の合併」 ○「利益剰余金の意味」「利益準備金」「任意積立金」「繰越利益剰余金」 ○「自己株式の意味」「自己株式の取得・処分・消却」			
	期末考査 まで	第18章 新株予約権 第19章 貸借対照表の作成 第20章 損益計算書のあらまし 第21章 損益計算の意味と基準 第22章 売上高 第23章 売上原価、販売費及び一般管理費 第24章 営業外費用・営業外収益 第25章 特別利益・当別損失 第26章 損益計算書の作成		○「新株予約権の意味」「新株予約権の発行・行使」 ○「貸借対照表の作成に関する原則」「貸借対照表に関する注記」 ○「損益計算書とその役割」「損益計算書の区分」「損益計算書の様式」 ○「損益計算の意味」「損益計算の基準」 ○「売上高」「工事収益」 ○「売上原価」「販売費及び一般管理費」 ○「営業外収益」「営業外費用」「経常利益・経常損失」 ○「特別利益」「特別損失」「当期純利益」 ○「損益計算書の作成に関する原則」「損益計算書に関する注記」			

3	学年末 考査まで	第27章 その他の財務諸表 第28章 役員収益・役員費用 第29章 外貨建取引 第30章 税効果会計 第32章 財務諸表分析 第33章 連結財務諸表のあらまし 第34章 連結財務諸表の作成	○「株主資本等変動計算書」「注記表」「附属明細書」 ○「役員収益・役員費用の意味」「商品の販売とサービスの提供」 ○「外貨建取引の意味」「円換算」「為替予約」 ○「税効果会計の意味」「税効果会計の会計処理」 ○「関係比率法」「構成比率法」「趨勢法」「実数法」 ○「企業グループと連結財務諸表」「親会社と子会社」「連結財務諸表の重要性」 ○「開始仕訳」「当期の連結仕訳」「連結精算表」
学習についての アドバイス	会計処理はその都度、適切な判断が求められます。授業で説明を聞いて納得するだけでなく、常に疑問を持ち、自分で考え判断する能力を身につけましょう。		

教科名	商業		担当者				
科目名	原価計算						
履修学年	2年	コース	会計キャリア	必修・選択	必修	履修単位	5
使用教科書(出版社)	原価計算(実教出版)						
使用副教材(出版社)	最新段階式 全商簿記検定 原価計算問題集(実教出版) 全商簿記実務検定模擬問題集1級原価計算(実教出版)						
学習の到達目標	<p>商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、原価情報の提供と活用に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1)原価計算、原価計算に関する会計処理及び原価情報の活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2)原価計算、原価計算に関する会計処理及び原価情報を活用する方法の妥当性と課題を見いだし、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応する力を養う。</p> <p>(3)企業会計に関する法規と基準を適切に適用する力及び適切な原価管理を行う力の向上を目指して自ら学び、適切な原価情報の提供と効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>						
評価の観点	知識・技術	思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度			
	原価計算、原価計算に関する会計処理および原価情報の活用に関する理論的な知識と技術にとどまらず、実務に関連づけられ、ビジネスのさまざまな場面で役に立つ実務に即した知識と技術が身についている。	経済社会において、原価計算をはじめとしたさまざまな知識、技術などを活用し、原価計算、原価計算に関する会計処理および原価情報の活用の方法の妥当性と実務に適用することにもなう課題を見いだすとともに、原価情報が社会に及ぼす影響を踏まえ、原価計算に関する理論、企業活動の流れなど科学的な根拠にもとづいて工夫してよりよく課題に対応する力が身についている。		企業会計に関する法規と基準を適切に適用する力および適切な原価管理をおこなう力の向上を目指してみずから原価計算について学ぶ態度および組織の一員として自己の役割を認識して当事者としての意識をもち、他者と信頼関係を構築して積極的に関わり、適切な原価の費目別計算、部門別計算、製品別計算などによる原価情報の提供と効果的な活用に責任をもって取り組む態度が身についている。			
評価の方法	定期考査 単元テスト・小テスト	定期考査 単元テスト・小テスト ワークシート 発言・行動		単元テスト・小テスト ワークシート 発言・行動			
評価の重み	40%	30%		30%			
学期	時期	単元名		学習内容			
1	中間考査まで	第1章 原価と原価計算 第2章 原価計算のあらまし 第3章 工業簿記-製造業における簿記-		<ul style="list-style-type: none"> ○「製造業の簿記」、「原価と原価計算」、「製造原価と総原価」 ○「原価要素の分類」、「賦課と配賦」、「簡単な例による原価計算」、「原価計算の目的」、「原価計算の手続き」、「原価計算期間」、「原価計算の種類」 ○「工業簿記の特色」、「製造活動を記録するために必要な勘定」、「工業簿記の基本的なしくみ」、「記帳手続きの例示」 			
	期末考査まで	第4章 材料費の計算 第5章 労務費の計算 第6章 経費の計算		<ul style="list-style-type: none"> ○「材料費の分類」、「材料の仕入れ」、「材料の保管」、「材料の消費」、「材料消費高の計算」、「予定価格法による場合の記帳」 ○「労務費の分類」、「賃金支払高の計算」、「賃金消費高の計算」、「賃金以外の労務費」 ○「経費の分類」、「経費消費高の計算」 			
2	中間考査まで	第7章 個別原価計算 第8章 部門別個別原価計算		<ul style="list-style-type: none"> ○「個別原価計算の手続き」、「原価計算表の記入方法」、「原価元帳と仕掛品勘定の関係」、「製造間接費の配賦方法」、「製造間接費の予定配賦」、「仕損品・作業くずの処理」 ○「部門別計算の目的」、「原価部門の設定」、「勘定の設定」、「部門別個別原価計算の手続き」 			
	期末考査まで	第9章 総合原価計算 第10章 工程別総合原価計算 第11章 総合原価計算における減損・仕損じなどの処理		<ul style="list-style-type: none"> ○「総合原価計算の特色」、「総合原価計算の種類」、「単純総合原価計算」、「平均法による月末仕掛品原価の計算」、「先入先出法による月末仕掛品原価の計算」、「単純総合原価計算表と記帳法」、「等級別総合原価計算」、「組別総合原価計算」 ○「工程別総合原価計算の意味」、「工程別総合原価計算の手続きと記帳法」 ○「減損の意味」、「減損の処理」、「仕損じの処理」、「副産物・作業くずの処理」 			
3	学年末考査まで	第12章 製品の完成と販売 第13章 決算と本社・工場間の取引 第14章 標準原価計算(その1) 第15章 標準原価計算(その2) 第16章 直接原価計算(その1) 第17章 直接原価計算(その2)		<ul style="list-style-type: none"> ○「製品の完成」、「製品の販売」、「販売費及び一般管理費」 ○「決算の手続き」、「財務諸表の作成」、「本社・工場間の取引」 ○「原価管理と標準原価計算」、「標準原価計算の特色」、「標準原価計算の手続き」、「原価標準の設定」、「標準原価の計算」 ○「実際原価の計算」、「原価差異の計算と分析」、「標準原価計算の記帳法」、「記帳と分析の例示」 ○「利益計画と直接原価計算」、「直接原価計算の特色」、「直接原価計算の手続き」、「直接原価計算による損益計算書」 ○「CVP分析」、「損益分岐図表」、「原価予測の方法」、「損益分岐点比率と安全余裕率」 			
学習についてのアドバイス	定期考査に向けて、日々の授業を大切にしてください。会計処理というのは、その都度、適切な判断が求められます。授業で聞いたことをただなぞるのではなく、問題に対して自ら考え、判断する能力や、友人と相談しながら答えを導きだしていくことが大切です。意欲的に問題に取り組むことで、複雑な原価計算も身につくことと思います。						

教科名	商業		担当者				
科目名	ソフトウェア活用						
履修学年	2	コース	情報キャリア	必修・選択	必修	履修単位	4
使用教科書(出版社)	ソフトウェア活用(実教出版)						
使用副教材(出版社)	全商情報処理検定模擬問題集1級ビジネス情報						
学習の到達目標	<p>商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、企業活動におけるソフトウェアの活用に必要な資質・能力を育成することを目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 企業活動におけるソフトウェアの活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 2. 企業活動におけるソフトウェアの活用に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。 3. 企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動におけるソフトウェアの活用主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。 						
評価の観点	知識・技術		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	企業活動におけるソフトウェアの活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。		企業活動におけるソフトウェアの活用に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決しようとしている。		企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動におけるソフトウェアの活用主体的かつ協働的に取り組もうとしている。		
評価の方法	定期考査(筆記・実技) 単元テスト・小テスト		定期考査 単元テスト・小テスト 実技問題		定期考査 単元テスト・小テスト 実技問題		
評価の重み	全体の40%		全体の30%		全体の30%		
学期	時期	単元名		学習内容			
1	中間考査 まで	1章 企業活動とソフトウェア活用 2章 情報通信ネットワークの活用		1. ビジネスにおけるソフトウェアの活用 2. ビジネスにおけるソフトウェアの進化 1. 情報通信ネットワークの導入と運用 2. 情報資産の保護			
	期末考査 まで	3章 表計算ソフトウェアの活用		1. 表計算ソフトウェアを用いた情報の集計と分析 2. 表計算ソフトウェアを用いたオペレーションズ・リサーチ			
2	中間考査 まで	3章 表計算ソフトウェアの活用 4章 データベースソフトウェアの活用		3. 手続きの自動化 1. ビジネスとデータベース 2. データベースの作成と操作 3. 手続きの自動化			
	期末考査 まで	4章 データベースソフトウェアの活用 5章 業務処理用ソフトウェアの活用		4. データベースの構造 5. SQLの操作 1. グループウェアの活用 2. 販売管理ソフトウェアの活用 3. 給与計算ソフトウェアの活用			
3	学年末考査 まで	6章 情報システムの開発 演習		1. システム開発の基礎 2. アルゴリズムの基礎 3. 情報システムの開発			
学習についてのアドバイス		<p>パソコン、スマートフォン、タブレット等で使用される便利なアプリケーションソフト。中でもビジネスに使用されるソフトウェアは、「使えて当たり前」とされるまでに社会に浸透しています。大量の情報を早く・正確に処理し、分析する力を身につけておくことが、今後の社会で活躍するための大切な力となります。この授業を通じて、「パソコンを活用するのはお手の物」となれるよう頑張ってください。</p>					

教科名	商業		担当者				
科目名	プログラミング						
履修学年	2	コース	情報キャリア	必修・選択	必修	履修単位	3
使用教科書(出版社)	プログラミング ～マクロ言語～(実教出版)						
使用副教材(出版社)	全商情報処理検定模擬問題集2級プログラミング						
学習の到達目標	<p>商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、企業活動に有用なプログラムと情報システムの開発に必要な資質・能力を育成することを目指す。</p> <p>1. プログラムと情報システムの開発について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>2. 企業活動に有用なプログラムと情報システムの開発に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。</p> <p>3. 企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動に有用なプログラムと情報システムの開発に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>						
評価の観点	知識・技術		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、企業活動に有用なプログラムと情報システムの開発に必要な資質・能力を育成することを目指す。		企業活動に有用なプログラムと情報システムの開発に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決しようとしている。		企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動に有用なプログラムと情報システムの開発に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。		
評価の方法	定期考査(筆記・実技) 単元テスト・小テスト		定期考査 単元テスト・小テスト 実技問題(プログラム作成)		定期考査 単元テスト・小テスト 実技問題(プログラム作成)		
評価の重み	全体の40%		全体の30%		全体の30%		
学期	時期	単元名		学習内容			
1	中間考査 まで	1章 情報システムとプログラミング 2章 アルゴリズム		1. 情報システムの重要性 2. プログラム言語の種類と特徴 3. プログラミングの手順 1. アルゴリズムの表現技法 2. 基本的なアルゴリズム			
	期末考査 まで	3章 プログラムと情報システムの開発		3. 応用的なアルゴリズム 1. 情報システム開発の手法と手順 2. プロジェクト管理 3. プログラムによる企業活動の改善			
2	中間考査 まで	3章 プログラムと情報システムの開発 4章 情報システムの開発演習		1. 情報システムの開発 2. 情報システムの評価と改善 1. アプリケーション開発の基礎 2. Python言語の活用			
	期末考査 まで	4章 情報システムの開発演習		3. Python言語の活用 4. データベース等、システムとの連携 5. 携帯型情報通信機器用ソフトウェアの活用 6. オブジェクト指向型言語の利用			
3	学年末考査 まで	5章 ハードウェアとソフトウェア 総合演習		1. データの表現 2. ハードウェアの機能と動作 3. ソフトウェアの体系と役割 4. 情報セキュリティ			
学習についてのアドバイス		生活や企業活動等に欠かせないコンピュータシステムが、どのような仕組みで動作しているかを理解すると共に、ビジネスに必要なソフトウェアのアイデアを自ら考え、具体的にプログラム言語を用いて実現していく力を養う授業です。 自らが考え出したアプリケーションを実現できるように取り組んでいきましょう。					

教科名	商業科		担当者				
科目名	オフィス実務						
履修学年	2	コース	全	必修・選択	必修	履修単位	3
使用教科書(出版社)	なし						
使用副教材(出版社)	ビジネス計算実務検定模擬問題集 2 級(実教出版) ビジネス文書実務検定模擬試験問題集 2 級(実教出版) 情報処理検定模擬試験問題集 ビジネス情報 2 級(実教出版)						
学習の到達目標	1 ビジネスの諸活動に必要な計算の基礎になる考え方や計算能力の向上を図る。 2 情報を速く正確に伝えるために必要となるビジネス文書に関する基本的な知識と入力に関する基本的な技能を身に付ける。 3 ビジネスソフトとして多く利用されている表計算ソフトウェアやデータベースソフトウェアに関する知識や技術を学習し、ビジネスにおいて情報を主体的、実践的に活用する能力を養う。						
評価の観点	知識・技術		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	ビジネスの諸活動に必要な計算方法や文書を作成するために必要な知識、情報を扱うために必要な表計算に関する知識を理解し、関連する技術を身に付けている。		ビジネスの諸活動に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて知識や技術を効果的に利用しながら論理的に表現しようとしている。		ビジネスの諸活動において、適切な意思決定を行うために情報を適切に扱うことに主体的に取り組んでいる。		
評価の方法	定期考査 単元テスト		定期考査 課題レポートの提出 コンピュータ実習の習熟度		課題レポートの提出 単元の振り返りまとめ		
評価の重み	40%		30%		30%		
学期	時期	単元名		学習内容			
1	中間考査 まで (ビジネス計算)	・ 度量衡の計算 ・ 割合に関する計算 ・ 手形割引の計算 ・ 仲立人の手数料計算 ・ 貨幣の計算 ・ 単利・複利の計算 ・ 売買・損益の計算 ・ 減価償却費の計算		全国商業高等学校協会(全商)主催のビジネス計算実務検定試験に出題される問題をベースに、ビジネスにおける意思決定の材料となるべきビジネス計算について学ぶ。			
	期末考査 まで (ビジネス文書)	・ 文書の種類 ・ 文書の作成と用途		全商主催のビジネス文書実務検定試験に出題される問題をベースに、ビジネス文書の作成について学ぶ。コンピュータ実習が中心となる。			
2	中間考査 まで (ビジネス文書)	プレゼンテーション 電子メール ことばの知識		全商主催のビジネス文書実務検定試験に出題される問題をベースに、プレゼンテーションの技法や電子メールのマナー、ビジネスでよく使われることばの知識について学ぶ。			
	期末考査 まで (情報処理)	表計算ソフトウェアの活用 データベースソフトウェアの活用		全商主催の情報処理検定試験(ビジネス情報)に出題される問題をベースに、表計算・データベースソフトウェアの活用方法を学び、情報処理能力を身に付ける。コンピュータ実習が中心となる。			
3	学年末考査 まで	ハードウェア・ソフトウェアに関する知識 通信ネットワークに関する知識 情報モラルとセキュリティに関する知識		全商主催の情報処理検定試験(ビジネス情報)に出題される問題をベースに、ネットワークの仕組みや近年重要視されている情報モラルやセキュリティについての基礎知識を身に付ける。			
学習についてのアドバイス	ビジネスの諸活動における実践的な技術を身に付けることを目標とした授業です。ビジネスの現場では大量の情報を処理し、速く・正確に伝えられることが要求されます。さまざまな業種や職種が AI 等に置き換わっていくなか、今後ますます人間の「意思決定」の力が問われます。そのような力を導くために必要な技術を身に付けるという意識で取り組んでください。						

教科名	商業		担当者				
科目名	観光基礎						
履修学年	2	コース	観光キャリア	必修・選択	必修	履修単位	2
使用教科書(出版社)							
使用副教材(出版社)	事例探究ワークブック 観光・地域活性化編(実教出版) 日本の宿おもてなし検定(JTB 総合研究所)						
学習の到達目標	観光とは何か、観光産業とはどのような産業か、観光の特性は何か、といった基本的な事柄についての知識を身に付け、地域資源の活用方法について考える。						
評価の観点	知識・技術		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	観光に関する基礎的な知識を身に付けているか。おもてなしの基礎的な知識と接客マナーを身に付けているか。		観光に関する諸課題を発見して、課題解決を目指して考えを深めることができるか。旅の目的に合致した旅行のプランニングができるか。		観光資源や地域の課題等について主体的に調査しているか。研修旅行に参加して、自分たちが学んだことを確かめることができるか。		
評価の方法	・定期考査 ・小テスト ・課題提出		・定期考査 ・レポートの提出・発表		・定期考査 ・課題提出 ・授業中の発言 ・教師による行動観察		
評価の重み	40%		30%		30%		
学期	時期	単元名		学習内容			
1	中間考査まで	○愛知県・東海地方の観光資源		自分たちが住む地域や近隣地域の魅力的な資源について調査し、発表し合う。地域の魅力や、地域が抱える問題について考える。			
	期末考査まで	○観光業におけるおもてなし		観光業の1つである宿泊業の接客について学び、身に付けた知識を活用して実践につなげる。おもてなし検定を通して、知識の定着を図る。			
2	中間考査まで	○関西・中国地方の観光資源		他の地域の観光資源について調査する。修学旅行の自由散策のモデルコースを作成し、発表し合う。			
	期末考査まで	○旅行プランニング		旅行プランニングについての基礎を学ぶ。東海地方への日帰り旅行をプランニングして、実際に検証する。			
3	学年末考査まで	○まとめ		旅行プランニングの報告書を作成し、発表する。観光ビジネスの諸課題について考え、課題解決の方法について話し合う。			
学習についてのアドバイス		観光には色々な形があり、時代とともに多様化しています。地域資源を価値の高い観光商品にするためにはどのような工夫が必要か、地域を元気にする方法には何かがあるか考えて前向きに学習しましょう。					

教科名	商業		担当者				
科目名	デザイン基礎						
履修学年	2	コース	デザイン	必修・選択	必修	履修単位	3
使用教科書（出版社）	なし						
使用副教材（出版社）	最短合格！色彩検定出る順テキスト&問題集 3級（ナツメ社） C G リテラシー-Photoshop&Illustrator（実教出版）						
学習の到達目標	デザインの基礎となる画面・空間の構成力や写実性をタイポグラフィーおよびデッサンの学習を通してその能力を養います。色彩についての知識を高め、作品制作に効果的に生かせるようになることを目指します。また、デッサンや色彩についての知識を生かしたコンピュータグラフィックス作品が作成できることを目指します。						
評価の観点	知識・技術		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	<ul style="list-style-type: none"> ・デッサンにおける基礎的な知識・技能を身に付けている。 ・色彩に関する基礎的な知識を理解している。 ・コンピュータグラフィックスに関する基礎的な知識・技術を身に付けている。 		実習課題において、課題の目的や意味を考え、構図や配色、表現を工夫して作品制作をすることができる。		商業デザインに関して広く関心を持ち、よりよい作品制作につながるよう主体的かつ協働的に取り組もうとしている。		
評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・実習課題 		<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・実習課題 ・振り返りシート ・授業態度（発言等） 		<ul style="list-style-type: none"> ・実習課題 ・振り返りシート ・授業態度（発言等） 		
評価の重み	40%		30%		30%		
学期	時期	単元名		学習内容			
1	中間考査まで	<ul style="list-style-type: none"> ○デッサンの習得 ○色彩について ○コンピュータグラフィックスについて 		<ul style="list-style-type: none"> ・楕円、立方体の描き方 ・色のはたらき、光と色について ・コンピュータグラフィックスの概要 			
	期末考査まで	<ul style="list-style-type: none"> ○デッサンについて ○色彩について ○コンピュータグラフィックスについて 		<ul style="list-style-type: none"> ・立体模型のデッサン実習、立体感の表現方法 ・色相環と色彩体系について ・Photoshopの基本操作 			
2	中間考査まで	<ul style="list-style-type: none"> ○デッサンについて ○色彩について ○コンピュータグラフィックスについて 		<ul style="list-style-type: none"> ・日用品のデッサン ・色彩心理、配色について ・Photoshopの基本操作 			
	期末考査まで	<ul style="list-style-type: none"> ○色彩について ○コンピュータグラフィックスについて 		<ul style="list-style-type: none"> ・配色イメージについて ・ファッション・インテリアと色彩 ・Photoshopを使用した作品制作 			
3	学年末考査まで	<ul style="list-style-type: none"> ○コンピュータグラフィックスについて ○レタリングについて 		<ul style="list-style-type: none"> ・Photoshopを使用した作品制作 ・Illustratorの基本操作 ・和文基本書体（骨格）の練習 			
学習についてのアドバイス		デッサンやレタリングにおいては「基礎」をしっかりと身に付けられるよう、繰り返し練習をしましょう。色彩の分野では身近な例を挙げながら進めていきますので、日常生活でも「色」を意識してみると良いでしょう。コンピュータグラフィックスの分野では、明確な作品イメージを持つことが大切です。特に主体的・創造的に取り組むことを期待します。					

教科名	総合的な探究の時間		担当者	第2学年担任・副担任			
科目名	キャリア探究Ⅱ						
履修学年	2年	コース	全	必修・選択	必修	履修単位	1
使用教科書(出版社)							
使用副教材(出版社)							
学習の到達目標	実社会や実生活と自己の関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して表現することができるようにする。						
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	身の周りの地域と他地域を比較しそれぞれの特性を探る過程において、自らの地域の中で自己がどうあるべきかを決定できる。 修学旅行で広島を訪れるが、事前学習として原爆の実相を知る。また戦争や平和について資料を集める。		身の回りの地域を比較することで得た情報や経験を分析し、論理的にまとめ表現できる。 平和のための資料や情報を分析し、論理的にまとめ表現できる。		地域や地場産業に関する探究活動に主体的・協働的に取り組み、地域の中ですべての人がよりよく生きることができ共生社会を実現するために必要な行動をしようとしている。 平和な世界を実現するために必要な行動をしようとしている。		
評価の方法	レポート、提出物、発言、行動等を総合的に評価						
学期	単元名			学習内容			
1	興味・関心 課題設定 情報収集と整理まとめ、発表			<ul style="list-style-type: none"> 身近な地域の課題や疑問を見つける その地域の課題や疑問を掘り下げ、解決する道筋を立てる 情報収集、それを整理し、発表できるようにまとめる。 調べる中で、新たに出てきた課題の問題点の解決策を考える。 			
2	修学旅行 平和学習 防災学習			<ul style="list-style-type: none"> 地域の特性を知る 身の回りの地域との比較 研修先の事前研究 研修成果まとめ 平和学習 防災に関する講演を聴く 			
3	進路探究 共生社会			<ul style="list-style-type: none"> 3年生による進路体験報告会 自己PRシート作成 「共生社会」とは何か 			
学習についてのアドバイス	身の回りの地域に目を向け、課題やその解決方法を探ることで「考える力」を身に付けます。また、修学旅行や3年生との交流などを通して自己の生き方について深く考えていきます。1年を通して自己の生き方に向き合い、適切な進路選択をするためのさまざまな知識や自分の考えを表現する力を身に付けます。前向きに取り組むようにしてください。						